

# 合格体験記

## 第1. ロースクールでの勉強方法について

### 1. 論文試験に向けた勉強方法

論文試験は、全部で8科目あり、範囲が膨大です。そのため、1科目を深く勉強していると、他の科目がおろそかになってしまい、永久に司法試験合格にすることができません。かといって、8科目薄い勉強をしてしまうと、試験で点数が付かず、司法試験合格にすることができません。そのため、8科目すべてで穴のないような勉強をする必要があります。

論文試験で合格点をとるためには、実際に合格者が本番でどこまで書くことができるのかを把握し、自分も他の受験生に書き負けないレベルまでの知識を得、書くことができるようにしなければなりません。反対に、そこまでのことをすることができれば、それ以上のことをする必要はなく、それ以上の知識を得ようといろいろな教科書を読み漁るのは(司法試験合格という観点からは)かえって有害であるともいえます。ぶんせき本や歴代の諸先輩方の再現答案を検討し、実際の司法試験の合格ラインを意識し普段の勉強を行うことが重要であるといえます。過去問を実際に120分で解くということは、本番で自分が分からない問題をどのように説くのかという練習をするとともに、実際の合格ラインを把握するために用いるためであると私は考えていました。

勉強の方法としては、皆さんが行っていることと概ね同じで、基本書を読むということと、試験に用いることができる形でまとめを作成するということが、短文事例問題を解くこと、司法試験の過去問を解くことを行っていました。私は、自分の力でまとめることが苦手であったため、市販の論証集を加工するという方法をとりました。この論証集をただ暗記するだけでは、内容も薄く、近年の司法試験の傾向である反対説に触れるという問題に対応することができないため、論証集に問題の所在や反対説を書き加え、また理由付け等を厚くするために修正するなどしていました。直前期には、このまとめのみを見返せば8科目すべてを復習することができる位の内容にはなっていたと思います。基本書や、授業の内容を踏まえて論証集の加工を行っていました。この論証集を1L から司法試験受験まで適宜修正を加え自身の知識のまとめとしていました。

### 2. 短答試験に向けた勉強方法

択一試験は、勉強したらその分だけ、成績が上がると思います。司法試験までに、パーフェクト(3科目)を5周くらいは解いたと思います。

択一の問題は、知識が細かく、以前に正解した問題であっても、時間が経つと正解できないことが多々あります。そのため、直前期には短期間で1周を回すことができるようにしておく必要があります。また条文知識がそのまま肢の答えになることも多いので、条文を素読することも必要です。

## 第2. ロースクールで役に立った授業や起案指導・チューター補講など

### 1. 授業について

愛知大学法科大学院の授業の特色として、すべての演習科目では起案の添削をしてもらうことができます。他のロースクールでは、起案の添削などは行われておらず、予備校等の答練を活用しているとのことなので、この機会を活用すべきです。論文答案是、短い時間で多くの分量を書き上げなければならず、慣れていないと日本語がおかしくなったり、三段論法がくずれたりするので、実際に書かなければ試験対策にはなりません。そのため、授業の機会に、これらがおかしくなっていないかを確認してもらえることは、愛知大学のメリットだといえます。

一方で、学部時代の授業と同様にインプット科目の授業については、人によって合う、合わないが少なからず存在すると思います。そのようなときは予備校等を積極的に活用することもありではないかと思います。

### 2. ゼミ等について

生徒同士で行うゼミについては、行うべきではないと考えていたため、していませんでした。その理由は、①生徒間で議論をしても、内容の正確性が担保できず、間違った結論に至ってしまうおそれがあるため、②無駄話をしてしまい、時間の無駄になるため、③途中でゼミを辞める人などが必ず出てくるため、予定通りに進行することができないためです。むしろ、自学自習の際に分からなかったことを教員に質問することの方が、勉強効率がよく、時間も無駄にならないと思います。

また、先輩の答案をもらうことも試験対策の観点では、不必要だとも思います。もらった答案をみるだけでは、その人が問題を解く際にどのような思考でそのような記述をしたかを把握することはできないし、実際に自分が本番でそのように書くことはできないからです。むしろ、自身が書いた答案を先輩に(迷惑にならない程度に)見てもらい、三段論法が崩れていないか、日本語が変ではないかを確認してもらうなどのアドバイスをもらう方がいいと思います。不安解消のために答案をもらいたい気持ちも理解できますが、まずは自分で起案を行った後で、答案をもらうようにしましょう。自分で問題を検討しないと、本番で考

えることができなくなるおそれすらあります。

### 3. チューター補講

チューターの補講については、参加していないので割愛。

### 第3. 役に立った基本書・参考書・授業のレジュメなど

初学者の間は、基本書を読むことが苦手で、市販の予備校のテキストを読んでいました。全体像を掴み、法律がある程度分かるようになった後は基本書を読んでいました。以下で私が使用した本を挙げますが、人それぞれ好みがあると思います。結局は何を読むかではなく、それを試験に活かすことができる形で読むことができるかであると考えます。私は指定教科書とされている本がほとんど合わないと感じたため、適宜自分に合うものを探して読んでいました。基本的には、字が大きく、フォントが一定で、印刷が見やすいものを選んでいました。

短文事例問題については、アガルートの重要問題習得講座を利用していました。

#### 1. 憲法

- ・基本憲法 I 基本的人権
- ・判例百選

#### 2. 行政法

- ・基本行政法
- ・行政判例ノート

#### 3. 民法

- ・伊藤塾呉明植基礎本シリーズ

#### 4. 商法

- ・リーガルクエスト
- ・会社法(高橋美加他)
- ・ロープラクティス

#### 5. 民事訴訟法

- ・有斐閣ストウディア民事訴訟法
- ・リーガルクエスト
- ・判例百選

#### 6. 刑法

- ・伊藤塾呉明植基礎本シリーズ

・基本刑法 I・II

7. 刑事訴訟法

・授業で配布されるレジュメ

・リーガルクエスト

8. 選択科目(倒産法)

・伊藤真試験対策講座倒産法

・授業で配布されるレジュメ

第4. 予備校の利用について

予備校は、自身の資金との兼ね合いではあるが、積極的に活用すると思いますし、私も利用していました。授業で分からないことや、理解がしにくい論点を違った観点から説明されることにより理解が促進されることがあります。

予備校模試についても積極的に活用した方がいいと思います。本番当日のシミュレーションができるからです。また、自身の成績が合格圏内にあるかどうかを確認することができるため、活用するべきであると思います。

第5. 在校生へのアドバイス

1. 1Lに向けて

1Lの間は勉強習慣や基礎を身につけるための重要な期間だと思います。この期間にしっかり勉強習慣を身につけ、法律の基本的な考え方を学ぶことにより、応用的な問題にも対応することができると思います。これまで、プライベートが充実してきた人ほど、勉強漬けの生活が苦しいと感じると思いますが、1Lの期間をしっかりと過ごすことにより、2L、3Lの生活が楽になると思います。3年という勉強期間は長いようであつという間です。がむしゃらに(方向性は間違えないように、あくまで目標は司法試験合格)勉強すれば、司法試験合格を勝ち取ることができ、また充実した生活に戻ることができると思います。

2. 2Lに向けて

2Lは演習科目が増え、皆が起案課題の締め切りに追われる時期です。しかし、起案課題はあくまで授業で取り扱う題材なだけであり、これをやるだけでは勉強をしたことにはなりません。起案課題をこなしつつも、自分で決めた他の学習も同時に進めなければならないと思っています。

起案課題に追われないコツとしては、課題が出題されたその日に完成させ提出することです。これにより、課題がない日や土日については余裕をもって自身の勉強に取り組むこと

ができると思います。

また、この時期から起案を行う際に自分が1ページ何分で書くことができるか、起案の際に出てしまう悪い癖(例えば、分からない問題が出題されたときに三段論法が崩れるなど)を把握するように努めるべきだと思います。

### 3. 3Lに向けて

ここまで来たらあと1年。この1年間は常に本番を意識して日々の学習をすべきであると思います。教室起案を必ず行うこと。120分間の起案でミスをしたら真剣に悔しがること。起案のタイムマネジメントを意識すること。など挙げればキリがないが、そのくらいの気持ちで本番を意識しなければならないと思っています。本番は慣れ親しんだ教室ではなく、ピリピリした雰囲気試験会場で行われるので、なかなかいつも通りの力を発揮することができません。そのためにも、普段から本番を意識する必要があると思います。この1年の努力次第で、来年からは司法修習にいけるのか、もう1年キャレルにいななければならないかが決まります。常に危機感をもって行動するようにするといいと思います。

短答式試験の勉強も忘れずに行いましょう。在学中受験が始まった今、目標点は150点くらいあってもいいと思います。ボーダーラインの点数では、合格を勝ち取ることはできないと思います。論文試験と同様、危機感をもって短答式試験の勉強も行ってください。

以上